

吉田式土器を中心に縄文時代早期前半の遺構・遺物が多数発見された遺跡である。13に分類された土器のうち、第9類土器としたものが石坂式土器である。この石坂式土器は、ほぼ直線的に外へ開くか直行する口縁部形態をもつもので、いわゆる石坂式土器の特徴である外反口縁は出土していない。つまり、新段階の石坂式土器ということが出来る。

注目されるのは、10類土器の下割釜式土器と11類土器の無文土器である。これらは9類土器とはほぼ同じ分布域を示すもので、直線的に外へ開く口縁部に、2か所の山形隆起部をもつなど、共通点が多い。9類が貝殻条痕文、10類が貝殻刺突文、11類がナデ仕上げによる無文という胴部文様の違いはあるものの、時間的に近い関係にあることが予想される。

③宮ノ上遺跡（吉田町教委2002）

宮ノ上遺跡は鹿児島県鹿児島郡吉田町に所在する遺跡である。吉田式土器の標式遺跡である大原遺跡は北へ2km離れたところに位置している。8種に分類された土器のうち、最も多く出土したⅡ類土器が石坂式土器である。

このⅡ類土器は、直行する口縁部や、瘤状突起をもつものなど、いわゆる新段階の石坂式土器であった。古段階の石坂式土器は出土していない。胴部文様のバリエーションが豊富なことも特徴である。貝殻条痕を基本としながら、綾杉状のもの・縦位のもの・斜位のものなどがみられる。

注目されるのは、Ⅰ類土器とされている土器でいわゆる円筒形条痕文土器の存在である。完形に復元できたものを含め、数個体出土している。この土器は中九州を中心に出土する土器型式で、中原式（木崎1996）とか一野式（水ノ江1988）と呼ばれているものである。黒川は木崎康弘のいう中原Ⅱ・Ⅳ式土器と石坂式土器が同一遺跡から出土することを指摘し、両者が時間的に近い関係にあることを示唆している（黒川2000）。宮ノ上遺跡の出土状況はまさにそのことを検証する際の貴重な情報を提供してくれた。しかも、石坂式土器も新段階のみしか出土していないことから、かなり限定された情報といえよう。もちろん、両型式が同時に存在した（いわゆる共伴）という確証は得られていない。このことも含め、両者の関係は今後の検討課題である。

以上、新段階の石坂式土器が出土している遺跡の状況を

2例紹介した。このほか、これ以前の調査でも石峰遺跡（鹿児島県教委1980）や榎崎B遺跡（鹿児島県立埋文センター1993）などでも新段階の石坂式土器のみが出土した例がある。明らかに新段階のみで遺跡を形成する例が増加しているのである。一方で、圧倒的に古段階のものが多い加瀬山遺跡（鹿児島県教委1993）や古段階のものしか出土していない岩ノ上遺跡（鹿屋市教委1988）などの例がある。

このように、新古それぞれの段階のみで構成される例が着実に増えていることから、細分の妥当性は指示できるものと考えられる。それぞれの出土域がほぼ同じような傾向を示すことから、両者の違いが地域差ではないことを示しているものといえよう。

（3）石坂Ⅰ式・Ⅱ式土器の提唱

縄文時代の研究において、土器編年作業の果たす役割は大きい。編年作業そのものが考古学の目的ではないことは言うまでもない。しかし、考古学的な作業において、より確かな時間軸を設定する手段として、土器の編年作業が最も有効であると考えている。このような観点に立ち、石坂式土器の新古2段階を簡潔に石坂Ⅰ式・Ⅱ式土器と呼称することを提唱したい。土器の編年作業は、出来る限り明瞭かつ簡潔に進めていく必要がある。石坂式土器の研究においても、Ⅰ式・Ⅱ式と独立した型式として取り扱う段階にきているものとするのである。

時間軸を設定できる独立した一型式としての名称に同じ「石坂式」を使用している点についてふれておきたい。

両者の相違点でもっとも明らかなのが器形である。口縁部が大きく外反するⅠ式に対し、Ⅱ式は外へ直線的に開くか直行するものが多いという違いがある。しかし、文様は同じ貝殻条痕文を使用する例が多い。前述したように、Ⅱ式になると、胴部文様のバリエーションが豊富になるものの、綾杉状の条痕は残っている。器形の違いはみられるものの、文様においては共通項も多いのである。このことから、石坂式という名称は残したまま細分し、共通の気風をもつ土器として意識しておきたい。

この石坂Ⅰ式土器と石坂Ⅱ式土器の特徴をまとめたものが表1である。また、それぞれの型式の代表例を図1、2にそれぞれ取り上げた¹⁾。

	器 形					文 様				備 考
	全 形	口唇部	口縁部	胴 部	底 部	口唇部	口縁部	胴 部	底 部	
石坂Ⅰ式	円筒形	やや丸みがある（断面薄鈍状）	外 反	やや膨らむ	平 底	浅い割目（米粒状）	貝殻刺突文が主	綾杉状の貝殻条痕（格子目状のものもあり）	浅い割目（米粒状）	尖底の有無については未だ明確でない
石坂Ⅱ式	円筒形	平坦なものが主	外傾および直行するものが主	ほぼ直線的	平 底	割目のないものが主	貝殻刺突文が主	綾杉状や格子目状の貝殻条痕、全面貝殻刺突文もあり	割目のないものが主	口縁部に瘤状突起をもつものが出現する

第1表 石坂Ⅰ式と石坂Ⅱ式土器の型式概念